

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300027		
法人名	医療法人 青松会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	〒028-6103 岩手県二戸市石切所字森合31番地		
自己評価作成日	平成25年4月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0391300027-00&PrefCd=03&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、職員共に毎日楽しく笑顔で過ごせるように努めています。
利用者様の出来ることに目を向け、助け合いながら安心して暮らせるようになじみの関係づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者を中心に、管理者、職員がいきいきと生活している様子がうかがえる。
- ・利用者を担当制にし、毎月広報と手書きのお手紙を送っており、家族から喜ばれている。
- ・介護計画は、担当者の日々の気づきを反映させ、職員全体で検討し、作成している。利用者、一人ひとりの課題に、きめ細かな対応策が検討され、評価が、次回の計画に反映されている。
- ・協力病院との連携が構築されている。緊急時、看取りの状態等、タイムリーな指導助言が得られ、夜間救急時にも対応していただい、利用者・家族、また職員は安心してケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に確認できる位置(玄関・事務所)へ掲示し、日々の業務につなげていけるようにしています。	理念は開設当時、職員で作成した。玄関・事務所へ掲示し、常に確認できるようにしている。また、定例の会議(月1回)で、話すようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	定期的に市内のイベントへ参加している。近隣のきいちご薬局さんや長福寺に散歩に行き、利用者様、職員ともに顔なじみの関係がつかれるように努めています。	町内会にはホームとしては未加入だが隣接する母体の二戸クリニックが加入しているので町内や市のイベントには参加できている。立地条件的に大きな病院や薬局などの奥まった目立たない場所にあるため近くの住民が気軽に立ち寄る事が減多にない。クリニックの職員は時々顔を出してくれたり薬局では利用者をお茶を出してくださることもある。近所のお寺の盆踊りや石切祭りにも参加して交流を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣との交流をする中で、認知症の理解を求め支援につなげています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催には至っていないが、運営推進会議では委員の方から率直なご意見、要望をいただき日々の支援に生かしていくよう努めています。	運営推進会議は、定期開催には至っていない。家族の代表が参加しており、職員の異動が多かったこと、休暇はとれているか等の質問に、適切に答えている。	運営推進会議を、定期的開催すること、会議に、駐在、消防署、町内の消防団、婦人部等にゲストとして参加を呼びかける等して、事業所を理解し協力して頂くことの働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	手続きの際、窓口へ訪問するようになじみの関係を築くよう努めています。	管理者は、変わったばかりではあるが、積極的に窓口にてかけ、何かとホームのことを話題にして情報交換をしたりアドバイスをいただいたり、また指導をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、夜間職員が一人で入所者をお世話する状態になる為、防犯上施錠させていただきます。	これまで、身体拘束にあたる行為は行っていない。玄関は、防犯上夜間施錠している。車椅子の利用者については、状態を観察し、できるだけ動くようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者の立場に立って考えるよう徹底し、職員同士声を掛け合い協力し合って虐待防止に努めています。また、困ったことがあったらその都度相談し、虐待が起きることがないように予防に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、知識を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みの面会時から、設備等も見学していただき充分納得した上で利用していただくよう気をつけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様にも参加していただける行事を企画し参加を促がしています。面会にいらした際にも必ずお声をおかけして意見や要望をお聞きしています。	年3回程、家族が参加する食事会を実施し、利用者と一緒にホームの食事を食べていただいている。運営推進会議で、意見をいただいているが、お世話して頂いている感謝の言葉が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎日の申し送りや、月一回の会議で意見を聞くよう努めています。利用者様の状態に合わせて柔軟に対応するよう心がけています。	職員会議には、職員は全員参加としている。また、経営に関わっている母体の事務の方と、看護主任が出席し、意見や助言をいただいている。職員から、休憩のスペースの確保について要望している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与につきましては、法人の担当者が管理しています。サービスの質の向上のため、資格取得に意欲を持って取り組んでいただくよう呼びかけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内ではありますが、研修会の情報収集をし、職員の能力に応じて研修に参加出来る様努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症グループホーム協会に加入し、定例会や研修会に参加しています。また、施設間の訪問研修等にも参加し、同業者との交流、意見交換に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限りご本人によりそってお話を聴くようにつとめています。安心して暮らしていただけるようなじみの関係作りを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネが中心となり、ご家族様の困っていること、要望等をお聞きしています。相談していただきやすい関係作りを努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の今までの生活を把握し、適切な支援が出来る様に心をかけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれの有する能力を把握し、家事等出来る事を継続していけるように努めています。利用者様同士、職員ともに助けあう関係作りを努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様とご家族様のこれまで築き上げてきた関係を継続していただけるよう面会をお願いをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会があった際は居室でゆっくりと過ごしていただけるよう努めています。行事の外出の際は、普段の会話に出てくるような馴染みの場所へ出かけたり自宅付近に行ったりしています。	面会があった際は、居室にお茶を持って行っている。家族に電話をかける手伝いを行っている。行事の外出の際は、普段の会話に出てくるような馴染みの場所へ出かけたり、自宅付近に行ったりしている。開設時から、来てくれている理容師さんとは顔馴染みになり、世間話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状態に応じてできることを分担して行っていただき、支えあっていけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な理由により退所されて関係が終了しても、外で声をかけていただいたり相談のお電話をいただくことがあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様、本人様から聞き取りをし、ご本人のこれまで培ってきた生活や思いを大切にしよう努めています。	食事時、入浴介助時等、日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。家族とは、面会時、意見や希望を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、本人様から聞き取りをし把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のかかわりの中で感じたことや聞き取ったことを記録に残し状況把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様から十分な聞き取り、意向を伺った上で、職員全員で介護計画の作成に取り組んでいます。	利用者を担当制にしている。本人や家族の思いや意向を反映させ、また、日々の申し送りで気づいたこと等、職員全員で介護計画の作成に取り組んでいる。介護計画は、一人ひとり課題をとらえ、丁寧に作成されている。また、評価は、次の計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一日一枚のケース記録への記入と、体調、状態変化の際には介護記録へ記録し、情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズに対応していけるように情報収集に努めています。また、現状で対応可能なことが職員間で話し合いを持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と疎遠になることのないよう、なるべくかわりを持てるように努めています。近所の薬局さんやお寺さんまで散歩に行き、なじみの関係がつかれるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用以前のかかりつけ医を大切にいただいています。受診の付き添いは、原則ご家族様へお願いしています。	家族が遠方の方や、緊急時には通院等の支援をしている。受診結果についても報告している。かかりつけ医とは、円滑な関係が出来ている。二戸クリニックの受診時はスムーズな対応に協力いただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の二戸クリニックの看護主任に相談し、助言をしていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は直接病院に出向き、情報交換や状態把握を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に必ず説明しご家族様の意向を確認しています状態に変化があったときはその都度連絡し、ご家族、本人様の意向に沿った対応が出来る様努めています。	入居時に、家族に意向を確認している。当初希望されない家族も、状態が変化していくうちに意向が変わっていくこともあり、連絡を密にし、本人、家族の意向に沿うよう努めている。これまで、かかりつけ医、協力病院の医師、看護師の指導を得ながら、2件の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の入退職があり、すべての職員が備えられているわけではない。急変時はマニュアルに添って二戸クリニックの協力の下対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練は行っており、近隣の二戸クリニック、木苺薬局さんにも声かけをし、協力していただいている。地震発生時も東日本大震災の教訓を生かし近隣の協力を仰ぎながら、柔軟に対応していきたいです。	火災想定避難訓練は行っているが、夜間想定訓練は実施していない。訓練には、隣接している、二戸クリニック、木苺薬局の協力を得ている。東日本大震災の教訓で、日用品、食糧、水等の備蓄をしている。また、家具の固定も気付かされた。	暗い道路を(職員だけでも)車椅子で避難するなどの取り組み方法も考え、実際に夜間の訓練を実施することを期待したい。マニュアルは、時々状況に合わせた見直しをされたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思い、人格を大切に、なじみの言葉で声かけをし、自尊心を損ねることなくその人らしい生活が続けられるよう心がけています。	職員は利用者、(利用者)本人が聞き慣れている苗字や、名前で声掛けをしている。利用者は、職員を「かつちゃ」や「ねえちゃん」とか呼んだりしている。職員は、笑顔で丁寧に穏やかに声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表出ができる方とできない方がおられますが、できる限り本人の訴えに傾聴しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	三度の食事とおやつ、入浴の時間は日課として決まっていますが、その他希望や体調を伺いながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んだり、お化粧をしたりとその人らしく整容やおしゃれを楽しんでいただくようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえから準備、盛り付け、片づけまで分担して職員と一緒にしています。	食材の下ごしらえ、盛り付け、配膳、片付け等、ほとんどの利用者が、役割を持って職員と一緒に、いきいきと準備している。行事食も、ホームで手作りしている。献立は母体の栄養士が作成、利用者の好物(ひつつみ等)も献立に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	二戸クリニックの栄養士の指導の下、バランスの取れた食事を提供しています。手作りおやつでは、昔食べたものをお聞きして作ったり、利用者様の要望があればメニューに取り入れて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、実施できています。状態に応じて支援し口内清潔の保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様の有する能力を把握し、自尊心と羞恥心に十分配慮しながら、適切な支援が出来る様子を心がけています。	布パンツ、尿取りパット、リハビリパンツ、おむつを、状態に応じて使用し、自立に向けた支援をしている。自分のペースで、トイレに行っている。便秘気味になると暴力的になる利用者もあり、日々の申し送りで対応を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士の指導の下、朝に牛乳を提供し、また食物繊維を多くし便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日課としてある程度の時間の設定はありますが、体調等を考慮しながらご希望に添って入浴を楽しんでいただくよう努めています。	いつでも入浴することが出来るよう用意している。毎日入浴される利用者もあり、週3回は入浴するような配慮がなされている。以前は、夜間の入浴を希望される利用者もあり、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の状態に合わせて快適にお休み頂けるように温度・湿度の調整も含め支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも服薬内容の確認ができるようにしています。処方が変わった際は必ず申し送りをし、把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事を取り入れ、季節の移り変わりを感じながら気分転換していただけるように努めています。農家だった方は毎年畑いじりを楽しみにされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の木苺薬局さんやお寺さんへ散歩に行っています。外出行事では、希望を募りなじみの場所へ出かけたり、買い物に行ったり要望に沿った支援に努めています。	隣家(木苺薬局)や、お寺に散歩に行っている。市内のスーパーに買い物に出掛けたり、パチンコに行ったり、出来る限り希望に添うようにしている。月1回の二戸駅の直売の日に、出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいと希望される方にはご家族の支援の下本人管理でお金を持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の支援により、携帯電話を持っていらっしゃる方もおられます。持っていらっしゃらない方でも要望に応じて支援するよう努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾を利用者様と一緒に手作業として作り、掲示しています。常に清潔、快適に過ごして頂けるように温度、湿度調節、換気をこまめに行う等努めています。	ホールの壁には、鯉のぼり(利用者の作品、うろこが折り紙の兜になっており斬新である)が飾られている。また、職員が持参した水仙が生けられており、季節感が感じられる。大きなソファにゆったり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	強要はせず、利用者様のお好きな所を選んでくつろいでいただけるよう努めています。夏場は敷地内のベンチでくつろいでおられる方もいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様のなじみのものや写真等、自由に持込されています。お部屋の家具やベッドの位置は、ご家族、本人様と相談しレイアウトしています。	居室には、個々の馴染みのものが置かれている。自分の作成した作品を見せてくれた利用者もいる。木製のベッド、小ダンスが備え付けられている。クローゼットもあり、整理整頓がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりにつかまり歩行したり、トイレから立ち上がったり自立した生活のお手伝い出来る様配慮した設備にしています。必要に応じて表札をつけ、不安をなくし、わかることの支援につなげられるよう努めています。		